

# ミヤマツヤハダクワガタ (ツヤハダクワガタ中部亜種)

コウチュウ目クワガタムシ科

石川県カテゴリー

準絶滅危惧

*Ceruchus lignarius monticola* Lewis

国カテゴリー

なし

## 選定理由

生息箇所、個体数ともきわめて少ない。

## 形態

体長は大顎を含め13~21mmの中型のクワガタムシ。体色は黒色で艶があり、前胸背板は方形状で、頭部の複眼後方には横皺がある。上翅には明瞭な10条の縦の隆線を持つ。オスの頭部は大きく、大顎は短大で内歯が1本ある。その内歯は原亜種より前方にあり区別点となる。メスは頭部、大顎とも小さい。

## 国内分布

本州（本県産は本州中部亜種で、中部地方に分布する）。

## 県内分布

白山市（旧白峰村）の白山山系山地帯に分布。

## 生態

標高1,000m以上のブナ帯に生息し、成虫は6月下旬~8月に現れ、カツラやミズナラの幹を這う。幼虫は、広葉樹や針葉樹の赤枯れ菌に侵された腐朽部を食する。本県では、カツラとミズナラが食樹として記録されている。成虫は晩夏に羽化した後、そのまま蛹室にとどまり越冬する。冬期の材内には、成虫、終齢幼虫、中齢幼虫が同時に見られることから、幼虫期間は2年以上かかるものと思われる。成虫は灯火にも飛来すると聞けるが、樹液には集まらない。

## 生息地の条件

標高1,000m以上のブナを中心とする原生林が残されていること、および幼虫の食樹となる赤枯れ菌に侵された枯死木が存在することが重要である。

## 生存の危機

生息地が白山国立公園内なので生息環境は保たれている。しかし、採集圧がかかる可能性が大きい。

## 特記事項

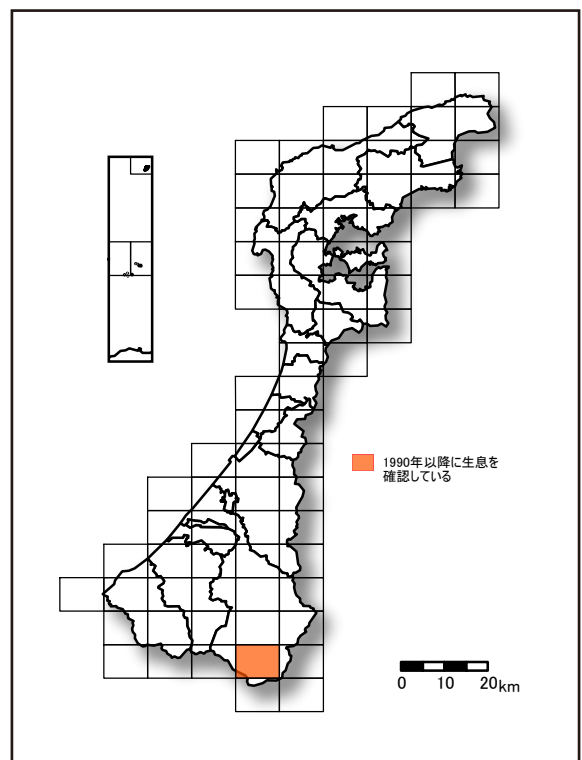
中部地方を除く、本州、北海道、四国と九州に各別亜種を産する。(A)

## 参考文献

高羽正治 1998. コウチュウ目クワガタムシ科. 石川県の昆虫: 146. 石川県自然保護課.



写真提供者: 富沢章



県内の分布